

審査結果の要旨

報告番号	乙 第 2925 号	氏名	津 留 智 子
審査担当者	主 査	石 竹 達 也	(印)
	副主査	上 野 高 史	(印)
	副主査	甲 斐 久 史	(印)
主論文題目：Augmentation index(AI) in a dose-response relationship with smoking habits in males -The Tanushimaru study- (男性における中心血圧は喫煙本数と容量依存性の関連を示す-田主丸研究より-)			

審査結果の要旨 (意見)

本研究は、循環器疾患を中心とした大規模疫学のコホート研究で有名な田主丸スタディの2009年に実施したデータ(約2,000名)について、左室や冠動脈、脳血管への負荷を反映する中心動脈血圧の代用となる中心血圧AI(Augmentation Index)をアウトカムとし、心血管リスクとの関連を検討した横断研究である。喫煙や飲酒頻度、血清脂質レベルに性差があるので、性別に検討を進め、とくに男性における喫煙習慣とAIに正の相関を見だし、統計学的に有意な量・反応関係があることを示した。心血管の障害を予防するためには、AIを指標とした禁煙に向けた生活習慣介入の重要性につながる知見であり、学位の授与に値するものである。是非、今回のデータをベースラインとした前向き研究や介入研究に発展することを大いに期待する。

論文要旨

中心血圧、AI(augmentation index)は、中心動脈圧の代用となり、左室や冠動脈、脳血管に関わる負荷を正確に反映するとして用いられ、従来の上腕式血圧計で測定した血圧より心血管リスクと密接に関連していることが明らかとされている。

今回、田主丸検診における大規模な疫学調査の結果から、AI値と動脈硬化関連因子、特に喫煙との関連を調べた。2009年に田主丸町で行われた住民検診受診者1,926名(男性769名、女性1,157名:年齢40-95歳)を対象に男女別にAIと心血管リスクの関連を調べたところ、男女ともに年齢補正後のAIと喫煙習慣は有意に正に関連していた。特に男性では、喫煙なし、以前喫煙歴あり、1日1-19本、1日20本以上の4群に分けたところ、有意な右肩上がりのAI値の上昇を認めた。このように、AI値は、動脈硬化関連因子と有意に関連し、特に喫煙は量的依存関連を示すことから、喫煙者に対して早期の生活習慣介入をすることが重要であると考えられた。